

「おおさか維新の会」(代表・松井一郎大阪府知事)は、党名を「日本維新の会」に変更し全国展開をはかろうとしています。「大阪の改革を全国に広げる」というのですが、大阪でや

ってきた維新政治とは何だったのか。何をめざしているのか。各界の人に語っていただきま

す。1回目は関西学院大学法学部教授の富田宏治さんです。

(随時掲載)

維新政治を問う

大阪以外では評判が悪かった「おおさか」を党名からはずし、全国で

「身を切る改革」などを旗印に「改革派」を名乗りたい議員・候補の受け皿になり、党勢を拡大したいとこのことではない

ど「なんでも民営化」しようとするのは、その典

に、安倍改憲の「本丸」

の役割は大きいというこ

すべき数字もあります。戦争法強行の次は明文改憲に突き進むとする安倍政権も政権内部に矛盾を抱えています。改憲が悲願の安倍首相にとって、別動隊としての維新の役割は大きいというこ

実現は阻まれています。府議選で単独過半数を狙う。府内の議員選挙

「身を切る改革」などを旗印に「改革派」を名乗りたい議員・候補の受け皿になり、党勢を拡大したいとこのことではない

名前変われど本質同じ 一層強まる「安倍補完」

安倍改憲の先兵

型です。

名前を変えても本質は変わりません。全国に広がるという「改革」の中心は、貧困と格差を広げただけの小泉「構造改革」の焼きなおしにすぎません。地下鉄、水道な

安倍政権の補完勢力ぶりはいっそう強まるでしょう。安倍政権も改憲勢力としての維新に期待が強い。参院選大阪選挙区(改選数4)で、改憲に反対する政党の候補を落とすために、維新に2人擁立を要請したのが首相

である9条改憲をのんだと言いたい布石でしょうね。

反対世論の強さから、9条改憲を前面に掲げての選挙は、安倍政権でもたたかえない。参院選の1人区で、公明党支持者の4分の1が野党統一候補に投票したという注目

組織政党に変貌

維新発祥の地である大阪から、維新政治を打ち破るうえで、見落としてはいけないのは、維新がメディアを利用した風潮の政党から、モンスター的な組織政党に変貌していることです。

に積極的に候補者を擁立する。東大阪市議選では0から8議席にし、直近の箕面市議選でも現職を1人落としたが、4議席から6議席にし、和泉市議選では3人を擁立しました。

重税感などを利用した偽りの「改革」ポーズの影響もあなどれません。が、とくに大阪で「橋下

物」の「改革」でたまたかうなど「論戦の力」ともに、組織戦でも勝たなければなりません。それは「共同の力」「草の根の力」です。

「堺はひとつ」「堺をつぶすな」とたたかい勝利した3年前の堺市長選、「大阪市をなくしたらあかん」とたたかい勝利した昨年5月の大阪府廃止・解体をめぐる住民投票。いずれも、目に見える形で「オール堺」「オール大阪」の共同が広が

りました。とくに、住民投票では集会、街頭演説、街角の宣伝で共同の姿が有権者の目にみえる形になり、街のあちこちで対話が生まれました。こうなったときには、政治には関心はあるが、どうせ変わらないと思っ

ている、あるいは期待が裏切られた経験を持つ「棄権層」が動き投票所に足を運ぶことも、こんなに生きる教訓だと思います。

(聞き手 渡辺健)



関西学院大学法学部教授

富田 宏治さん

重税感などを利用した偽りの「改革」ポーズの影響もあなどれません。が、とくに大阪で「橋下

物」の「改革」でたまたかうなど「論戦の力」ともに、組織戦でも勝たなければなりません。それは「共同の力」「草の根の力」です。

「堺はひとつ」「堺をつぶすな」とたたかい勝利した3年前の堺市長選、「大阪市をなくしたらあかん」とたたかい勝利した昨年5月の大阪府廃止・解体をめぐる住民投票。いずれも、目に見える形で「オール堺」「オール大阪」の共同が広が

りました。とくに、住民投票では集会、街頭演説、街角の宣伝で共同の姿が有権者の目にみえる形になり、街のあちこちで対話が生まれました。こうなったときには、政治には関心はあるが、どうせ変わらないと思っ



「戦争アカン！」との共同もかつてない広がりを見せている＝大阪市